

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

(別添様式2)

回答率57% (33人/58人)

満足度100% (33人/33人)

公表日: 令和6年1月15日

事業所名: リハビリ発達支援ルームUTキッズ三田

サービス種類: 児童発達支援・放課後等デイサービス

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	2名での使用時は、十分なスペースを確保できています。3名での使用時は、2名時と比べスペースが狭くなっています。	はい 30人	どちらとも言えない 3人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具やおもちゃ等充実しています 広いスペースにたくさん遊具があります。 ・もう少し、広げればと思う事はある。 ・年齢によって、また遊び方によっては狭く感じることもある。もっと広く使えたと遊び方がひろがり、ゆとりを持って取り組める。怪我などの危険リスクも軽減されるのではないかと。 ・利用する子供が3人以上の時にはややスペース不足を感じる。 ・2人同時の時はもう少し広いといいと思うが、狭くはない。 ・支援に必要な安全なスペースが確保できるよう、指導員間でのやりとりを密にします。また、現在のスペースでも行えるよう、遊びの提案を広げていきます。
	2 職員の適切な配置	1児に対し、1指導員がつくことで、素早く適切に対応出来るようにしています。転倒等リスクの高い児には、サブスタッフを配置しています。また、利用定員に対する人員配置基準+1名を配置しています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1で療育していただいて子供の様子をとても見ていただいています。 ・常に、職員数>子供なので安心。 ・児童一人に対し一人ずつ職員をつけていただいています。 ・どの先生も専門性が高く、人柄も見習いたいと思う人ばかりで、手厚い支援をしてくれる。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	遊戯室・スヌーズレン等、役割別のスペースを用意しており、行う活動が分かりやすいよう配慮しています。また、動線に配慮し退所時の切り替えを助けるものとなっています。	はい 32人	どちらとも言えない 1人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の部屋とクールダウンの部屋とあり子供も部屋の移動で状況を理解出来ています。 ・機能ごとに部屋が分けられており、触っては行けないものは鍵付きの柵や高いところに置いてあるので、物理的に工夫されていると思う。 ・汚れていると感じる箇所はない。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	日々の清掃に加え、口にくわえるものは使用毎に消毒をしています。また感染予防のために物品消毒や常時換気、加湿器を使用しています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除や整理されてとても綺麗です。 ・温湿度管理や感染症対策など行なっていていただいております ・換気など、危険に対する配慮はしっかりされている。ただ年齢によって、また遊び方によっては狭く感じることもある。もっと広く使えたと遊び方がひろがり、ゆとりを持って取り組めそう。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	業務改善の策定は、ミーティングを通して決定しています。児や保護者への最良の支援が提供できるよう、各指導員が積極的に意見交換をしています。					
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	現在外部評価委託は行っていませんが、関係機関との情報共有を積極的に行うことで多角的な視点での業務となるよう心がけています。					
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	本部からの指導員派遣や内部での支援検討会、外部への研修参加を積極的に行っています。					
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントは療育毎に行い、児のニーズや課題を分析します。また、保護者からの「聞き取りシート」も活用し子どもの段階、ニーズを確認し、個別支援計画書を作成することで客観性を保っています。	はい 32人	どちらとも言えない 1人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に時間のお友達と遊んだり人間関係も勉強できています。 計画書を作成にあたってとても細かくお話を聞いて下さっています。 計画作成前は必ず面談をして下さり安心できます。達成できた課題や今後も継続的に支援する必要があるところなどを一緒に洗い出すことができ、事業所と連携できていることが実感できます。 まだ分かりません。 毎回の子供の様子や親の要望を十分に考慮された支援計画を立ててくれる。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別や集団等の方法論に縛られず、個々に必要な支援を個別支援計画書に記載しています。					
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	保護者にニーズを基に、児の「困り感」の解決に近い項目に優先して関わります。また、個別支援計画書には具体的な遊びを記入しています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	<p>上の通り</p> <p>⇒必要な項目及び具体的な支援内容の記載は当然として、さらに分かりやすい表記になるよう書式の改定を進めています</p>
	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画書に沿った支援を実施しています。児の変化に合わせて、計画に縛られず今必要な支援になるよう随時変更をしています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	アセスメントや支援内容は、指導員同士で積極的に意見交換をしたうえで立案しています。また、その内容をチーム全体で共通理解できるように記録を残すようにしています。					

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日、休日、にとらわれず「困り感」の軽減に向けた支援を行っています。また、長期休み前後は心身状態を確認し、状態に応じた支援を調整しています。長期休暇時はイベントを開催し、普段では得られない感覚運動体験や家族との余暇の充実を目的とした支援を行っています。				
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	はい 32人	どちらとも言えない 1人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回その日の子供の反応を見ながら柔軟に対応いただいております。 ・子どもの発想やアイデアを取り入れながら、遊びを通して療育をしてくださっていると感じる。 ・まだ分かりません。 ・子供の特性もあり、ある程度毎回似通ったプログラムになるが、飽きないように工夫していただいている。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	担当制のため、各指導員が支援内容を確認しています。並行の児がいる場合は、互いに配慮すべき点を支援前に確認しています。				
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	通所の無い空き時間を活用して、担当児に対する振り返りや意見交換を随時行っています。また管理者へ支援の進行状況や相談を随時あげています。				
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記録は、事実と考察を分けたくえて記載することで支援内容の検証・改善ができるようにしています。また、担当外の指導員が過去の記録を参照して客観的な意見を出せるようにしています。				
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	療育終了後のフィードバック毎に、生活のモニタリングを行っています。またモニタリング内容に対し、支援内容が合うように随時見直しをしています。				

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	相談支援員からの現状の確認や今後の方針を、電話または来所される時に児童発達支援管理責任者や担当指導員が対応しています。					
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	現在は、医療的ケアが必要な方のご利用はございませんが、ご利用があった際には、保育や教育と連携した支援を進めていく予定です。					
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	児童の主治医の連絡先や協力医療機関の情報を共有し緊急時の対応に備えています。また保護者同席の通所に限定することで、速やかに適切な対応が行えるようにしています。					
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	保護者や園・学校からの要望をもとに情報共有や多角的な視点のもと連携を行っています。					
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	現在、必要な方のご利用はございませんが、必要となった際には、十分な情報提供や連携を図れるように対応します。					
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	児童発達支援センターの研修を受講しています。また、研修補助制度による受講の促進を行っています。					
	7	児童等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	4日/月以下の利用回数を設定することで、園、学校で十分に交流できる時間を確保しています。また園、学校での交流を阻んでいる要因を評価し、軽減できるよう支援しています。	はい 17人	どちらとも言えない 12人	いいえ 4人	わからない 0人	・保育所に通っており、必要としていない。 ・まだ分かりません。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	現在行っていません。					

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	利用開始前に利用者負担等の説明を行っています。また、不明なことがあれば随時確認していただいて良いことをお伝えしています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	計画更新時に、前回の計画の進行や目標の達成度の確認を行っています。また、更新した計画の説明も行い、不明な点があれば随時質問するようお伝えしています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	・毎回の内容をフィードバックいただき家庭での遊びにつながるようなアドバイスをいただいています
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	未就学児の保護者を対象にペアレントトレーニングを実施しました。初の試みのため、対象の方を絞って声をかけさせていただきました。現在は療育終了時に、対応の確認やアドバイスを行っています。また不定期に勉強会を開催しています。	はい 28人	どちらとも言えない 4人	いいえ 1人	わからない 0人	・専門家としてのその時の様子を客観的に教えていただいています。 ⇒フィードバックの時間や事業所内相談を利用し、保護者との共通理解が充実するよう努めます。また来年度も引き続きペアレントトレーニングを実施できるよう準備を進めていきます。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	療育終了時のフィードバックの時間を利用して行っています。また相談は随時受け付けることをお伝えしています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	同上	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	現在、父母の会や保護者会は行っていません。	はい 12人	どちらとも言えない 16人	いいえ 5人	わからない 0人	⇒必要とされる方に随時、外部の保護者会や保護者主催の運動教室を紹介しています。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	ご利用前「重要事項説明書」にて苦情窓口の説明をしています。	はい 22人	どちらとも言えない 9人	いいえ 2人	わからない 0人	・苦情した事が無いので、対応が不明。 ・現時点で苦情はない。 ・まだ分かりません。 ・苦情をするようなことがないのでわからない。 ・利用したことはないが体制の説明はうけた。 ⇒疑問点やご意見、ご相談等ございましたら、その都度迅速な対応を心がけていきます。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	児の特性や状況に合わせ、得意な感覚情報による伝達を行っています。	はい 32人	どちらとも言えない 1人	いいえ 0人	わからない 0人	該当ケースがない。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	活動概要は、ブログやInstagramを通じて行っています。予定等連絡事項は一人一人に通知を渡しています。	はい 27人	どちらとも言えない 6人	いいえ 0人	わからない 0人	利用時は基本的に、保護者に同席してもらい、かつ必ずフィードバックの時間を設けることで、直接的かつ具体的に情報の発信、共有を行なっています。また、緊急時の連絡がスムーズに取れるように、メールアドレスを登録いただいています。今後、一斉通知システムの導入を検討し、さらに円滑な連絡体制が整うよう進めていきます。
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	「個人情報使用同意書」「撮影同意書」に則って、厳重に管理しています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各マニュアルを策定しており、周知を図っています。	はい 27人	どちらとも言えない 6人	いいえ 0人	わからない 0人	
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年に3回職員が避難訓練を実施しています。掲示板にて実施内容報告書を掲示しています。	はい 16人	どちらとも言えない 15人	いいえ 2人	わからない 0人	・把握していない。 ・まだ分かりません。 ⇒防犯・火災・地震に対する訓練を各1回/年実施しています。実施内容報告書は掲示板に掲示しています。回覧や掲示物は、見直し箇所がわかりやすいようにチェックしていきます。
	3 虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	従業者に対する虐待防止を啓発・普及するための研修を実施しています。	/				
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明し、了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	ご利用前「重要事項説明書」にて説明しています。現在は、毎日身体拘束の有無について確認する時間を設けており、身体拘束はありません。やむを得ない状況が発生した場合には、計画への反映と十分な説明を行っていきます。	/				
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	食事の提供はないため、実施していません。イベントで飲食が発生する場合は、保護者にアレルギーの確認を行った上、飲食に同意頂ける方のみ参加していただいています。	/				
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	週1回のミーティング時にヒヤリハットの共有・対応策の検討を行っています。また安全管理委員会により、各事業所のヒヤリハットを統計、データ化しています。	/				

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価				保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
満足度	1 子供は通所を楽しみにしているか	個々の発達段階にあわせた課題を、感覚統合理論を基礎にした運動あそびに落とし込んで提供しています。「楽しみ」に通っていただけることが、結果として「出来た」を増やし自信が高まる支援を実施できている一つの指標と考えて、日々の支援に取り組んでいます。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回とても楽しみにしております ・毎回楽しすぎて、当日が待ちきれない様子。 ・毎回とても楽しみに利用しております。 ・とても喜んで行っています。 ・これから楽しみにしているようです。 ・とっても毎週楽しみにしています。
	2 事業所の支援に満足しているか	当事業所は、困り感軽減を目的とせず、困り感軽減の見通し(困り感の背景と支援方法)をつけていただくことを目的としています。また困り感軽減のためには、事業所支援と家庭支援の協働は不可欠と考え、利用毎の見学のお願いや背景の説明、ホームワークの伝達を行っています。協働して支援することで、早期支援を充実させるとともに、利用が終了しても、徐々に困り感が軽減する適切な支援が継続できるようにしています。	はい 33人	どちらとも言えない 0人	いいえ 0人	わからない 0人	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも真摯に子供と向き合っていたきとても助かっております。 ・いつもサポート感謝しています。ありがとうございます。 ・いつも子どもと保護者の気持ちに寄り添ってしっかりとご支援いただいています。 ・子どもにとってもとても安心できる場所のようで活動中に先生に日頃の悩みをそつと打ち明けたりと、信頼できる場所になっていることをうれしく思います。 ・また、子どもが活動中にケガをしてしまったときも先生方がそれぞれ落ち着いて病院受診につなげられるようにご対応いただきました。その後すぐ、また同じようなケガが起きないような注意書きと活動中の声かけで対策もとられ、事業所全体で事故防止の情報を共有されていることを実感しました。 ・これからもよろしく願います。 <p>⇒1人の子どもや保護者様へ、充実した支援を継続することと、困り感をかかえた多くの子どもや保護者様に対し、支援をとどけ健やかな発達を得ていただくこと、どちらも当事業所の重要な使命と考えています。どちらも高い次元でバランスが取れるように、より良い支援体制づくりを進めていきます。</p>